

一般質問通告書

No. 1

上記の件について、下記のとおり質問したいので、会議規則第 62 条第 2 項の規定

により通告します。

平成 28 年 8 月 24 日

議席番号 7 番

東村山市議会議長 様

質問者 小林 美緒

記

番号	質問の項目と要旨
1	「明るい未来に期待して」 東村山が高齢化社会に対して準備出来ること
1	高齢化が進み要介護者が増加すると、自治体の財政状況にはどう影響するものか。改めて伺う。
2	現在の東村山の要介護者の人数・認定率を伺う。
3	2025 年、要介護者は東村山で何人になる見込みか伺う。
4	2025 年、要介護者の増加が全国的にも見込まれている。それに伴い介護従事者も増加しなくてはならない。人材の確保が出来る見込みはあると考えるのか伺う。
5	人手不足から人材確保が急務であるが、その為に東村山市が行っていることはあるか伺う。
6	市内の特別養護老人ホームはいくつあるか伺う。
7	市内特別養護老人ホームの総ベット数はいくつか伺う。
8	2025 年、十分か。または不足するとすれば何床足りないか伺う。
9	特養の増設を望む声が多い中、増える事で介護保険の医療費への跳ね返りが大きいと認識するがどうか伺う。
10	今後東村山として、特養を増やすのか、または在宅ケアへシフトしていくのか、考えを伺う。
11	2025 年、また 2040 年問題と色々課題は多いが、高齢化社会において東村山が目指す理想は、どんな自治体である事か伺う。
12	小規模多機能の居宅型の施設はいくつあるか伺う。
13	地域の中に片寄って多くあったり、極端に少ない地域はあるか伺う。
14	これからの社会にとって小規模多機能居宅型施設は必要と考えるが見解を伺う。

議席番号 7番

質問者 小林 美緒

番号	質問の項目と要旨
15	市内の要介護者の中の介護度の割合を伺う。
16	介護度が2以下である場合、機能回復訓練によって要介護から卒業でき、重度化を防げると良く言われるが、そのような部分における取り組み等あるか伺う。
17	これから介護職は温かいぬくもりある介護の提供だけではなく、医療職の濃い仕事になっていく事が見込まれる中で、専門性の必要がない部分を地域で支え合いみていく必要がある。地域包括ケアシステムは良い方向に進んでいるか、進捗を伺う。
18	企業の参入やロボットの市場規模拡大、外国人による介護の増加、医療技術・新薬の発展等々、近い将来待つ高齢化社会、準備あるのみと考えるが、市長の見解を伺う。